

## 「鶴居村の教育」発刊に寄せて～心に火をつける教師の育成

鶴居村教育委員会教育長 村上明寛

鶴居村の教育が充実・発展するうえで重要な役割を担う鶴居村教育研究所が、令和元年度の活動の成果をまとめた研究紀要「鶴居村の教育」を発刊されますことに心からお祝いを申し上げます。

また、鶴居村教育研究所におかれては、本村学校教育全般にわたる調査研究、教職員の資質向上に取り組まれるとともに、教育委員会と一体となって学校教育の推進に寄与していただき、感謝と敬意を表します。

凡庸な教師はただしゃべる。

良い教師は説明する。

優れた教師はやってみせる。

偉大な教師は心に火をつける。

ウィリアム・アーサー・ワードの有名な教育格言ですが、「心に火をつける」教師を目指して、日々学び続ける教員の環境整備を図るため、平成28年11月に教育公務員特例法が改正されました。その趣旨は「学び続ける教員像の理念の具現化」といわれ、「学び続ける教員像とは、教員が生涯を通じて自ら職能成長を図るため、学校教育法に定める研究と修養を怠らない職業人であり、高度で専門的な職業人であることの宣言」といわれています。

当時、この法改正を受けて道教委が道内市町村教育委員会、PTA、校長会などを対象に「求める教員像」についてアンケートを行いました。その中で教員として必要と思われる資質能力をたずねています。その結果では「不易とされてきた資質能力」として選ばれた資質能力のベスト3は「総合的な人間力」、「教育的愛情」、「使命感・責任感」であり、それらは、子供たちの人格の形成を担う存在である教員にとって、どのような時代にあっても求められる資質能力と言えます。また、「今後求められる資質能力」として選ばれたベスト3は「組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む力」、「新たな課題に対応できる能力」、「学び続ける力」となり、それらは、子供たちに予測不能な未来を切り拓き、たくましく生きる力を育むことのできる「高度で専門的な職業人」として必要な資質能力と言えます。

こうした資質能力を育み、教員が学び続けるための環境を整えることは、教育委員会や学校にとって、今まで以上に重要な責務となりました。鶴居村には、各校が校内研修や授業公開に熱心に取り組んできた土台と鶴居村教育研究所が中心となって各校が連携・協力して学校教育の向上につなげてきた伝統があります。これからも鶴居村教育研究所がその機能を存分に発揮し、各校・各教員の学びの要となることを改めて期待しています。

そして、教育委員会……。 「組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む力」、「新たな課題に対応できる能力」、「学び続ける力」、こうした資質能力を育むために教育委員会ができることは何か、しなくてはならないことは何かを考え、具体的に取り組んでいかななくてはなりません。教員が学び続けることができるよう、①研修・研究の機会を確保すること。②ICTをはじめ効率的な執務環境を整えること。③研修を促進するための旅費や図書費を確保すること。④働き方改革を進め、学校・教師が担う業務の明確化・適正化を図ること、など一層取り組んでいかななくてはならないと考えています。もちろん学校教育に関する専門的事項の指導助言も行っていく必要がありますが、鶴居村教育委員会には小規模自治体ゆえの限界もあります。鶴居村教育研究所にはこうしたことを補完する役割を担っていただいていることも事実です。これからも、鶴居村教育委員会と鶴居村教育研究所そして校長会・教頭会をはじめとする関係団体が連携し、車の両輪あるいは前後輪としてそれぞれの役割を果たし、互いに補完しながら、「心に火をつける」教員の育成に努めていきたいです。